

使用前には必ず本説明書を読み、注意事項を守って使用して下さい。



動物用医薬品

“京都微研”ピッグウイン-EA

豚アクチノバシラス・ブルロニューモニエ (1・2・5型) 感染症・豚丹毒混合
(油性アジュバント加) 不活化ワクチン (シード)

製法及び性状

本剤は、豚丹毒菌血清型2型菌を培養後、採取した菌体からNaOH溶液により抽出した可溶性抗原及びアクチノバシラス・ブルロニューモニエ血清型1型、2型、5a型菌を培養後、採取した培養上清の濃縮液とオイルアジュバントを混合乳化化したワクチンである。

本剤は静置すると2層になることがあるが、振盪すれば均一な低粘性の乳白色の液体である。

成分及び分量

○1バイアル (20mL) 中			
豚丹毒菌 Kyoto株 (シード) NaOH抽出抗原	ELISA抗原価1,600単位以上/7mL	7	mL
アクチノバシラス・ブルロニューモニエ Y-1-1株 (シード) (血清型1型) 培養上清濃縮抗原	ELISA抗原価16,000倍以上/2mL	2	mL
アクチノバシラス・ブルロニューモニエ G-4-1株 (シード) (血清型2型) 培養上清濃縮抗原	ELISA抗原価16,000倍以上/2mL	2	mL
アクチノバシラス・ブルロニューモニエ E-3-1株 (シード) (血清型5a型) 培養上清濃縮抗原	ELISA抗原価16,000倍以上/2mL	2	mL
ホルマリン		0.04	mL以下
無水マンニトール・オレイン酸エステル加スクワラン液		7	mL

効能又は効果

豚丹毒及びアクチノバシラス・ブルロニューモニエ血清型1、2、5型菌感染症の予防

用法及び用量

約30～50日齢豚の耳根部後方頸部筋肉内に1mL注射する。その後90日齢までに約30～60日間隔で反対側の耳根部後方頸部筋肉内に1mL注射する。

使用上の注意

【一般的注意】

- 本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方せん・指示により使用すること。
- 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
- 本剤は効能・効果において定められた目的のみ使用すること。
- 本剤はシードロットシステムにより製造され、国家検定を受ける必要のないワクチンであるため、容器又は被包に「国家検定合格」と表示されていない。

【使用者に対する注意】

- 誤って人に注射した場合は、患部の消毒等適切な処置をとること。誤って注射された者は、必要があれば医師の診察を受けること。その際、動物用油性アジュバント加ワクチンを誤って注射されたことを医師に告げるとともに本使用説明書を医師に示すこと。
- 事故防止のため、作業時には防護メガネ、マスク、手袋等を着用すること。

本ワクチン成分の特徴

抗原	抗原		アジュバント	
	微生物名	人獣共通感染症の当否	微生物の生・死	有無 種類
豚丹毒		当	死	
アクチノバシラス・ブルロニューモニエ		否	死	有 無水マンニトール・オレイン酸エステル加スクワラン

本ワクチン株は不活化されており、感染性はない。

本ワクチンに関するお問い合わせは下記までお願いします。

株式会社 微生物化学研究所 営業部
〒611-0041 京都府宇治市横島町24、16番地
TEL: 0774-22-4519
FAX: 0774-22-4568

【豚に対する注意】

1 制限事項

- 本剤の注射前には健康状態について検査し、重大な異常 (重篤な疾病) を認めた場合は注射しないこと。
- 豚が次のいずれかに該当すると認められる場合は、健康状態及び体質等を考慮し、注射の適否の判断を慎重に行うこと。
 - 発熱、下痢、重度の皮膚疾患など臨床異常が認められるもの。
 - 疾病の治療を継続中のもの又は治療後がないもの。
 - 交配後がないもの、分娩間際のもの又は分娩直後のもの。
 - 明らかに栄養障害があるもの。
- 本剤の注射後、激しい運動は避けること。
- 本剤の注射後、少なくとも2日間は安静に努め、移動等は避けること。

2 副反応

- 注射後一過性の発熱、元気消失、食欲不振を認めるが、通常3日以内に消失する。
- 注射部位に腫脹、硬結を認めることがある。

(3) 副反応が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

3 相互作用

本剤には他の薬剤（ワクチン）を加えて使用しないこと。

4 適用上の注意

- (1) 注射部位を厳守し、追加注射は初回と異なる部位に行うこと。
- (2) 注射器具は滅菌又は煮沸消毒されたものを使用すること。薬剤により消毒をした器具又は他の薬剤に使用した器具は使用しないこと（ガス滅菌によるものを除く。）。なお、乾熱、高圧蒸気滅菌又は煮沸消毒等を行った場合は、室温まで冷えたものを使用すること。
- (3) 注射器具（注射針）は原則として1頭ごとに取り替えること。
- (4) 注射部位は消毒し、注射時には注射針が血管に入っていないことを確認してから注射すること。
- (5) ワクチン容器のゴム栓は消毒し、無菌的に取扱うこと。
- (6) 本剤を誤って皮下、皮内に注射した場合、注射部位に腫脹、硬結を生じることがある。

【取扱い上の注意】

- (1) 外観又は内容に異常を認めたものは使用しないこと。
- (2) 使用期限が過ぎたものは使用しないこと。
- (3) 一度開封したワクチンは速やかに使用すること。使い残りのワクチンは雑菌の混入や効力低下のおそれがあるので、使用しないこと。
- (4) 使用時よく振り混ぜて均一とすること。
- (5) 本剤は粘稠度が高いため、あらかじめ室温程度（約20℃）に戻してから使用すること。
- (6) 開封時にアルミキャップの切断面で手指を切るおそれがあるので注意すること。
- (7) ワクチン容器は破損するおそれがあるので、強い衝撃を与えないこと。
- (8) 使い残りのワクチンは紙等で吸い取り可燃物として処分し、また容器は地方公共団体条例等に従い処分すること。
- (9) 使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託すること。
- (10) 使用した器具・器材は、油成分が残存しないよう十分洗浄すること。

【保管上の注意】

- (1) 小児の手の届かないところに保管すること。
- (2) 直射日光、加温又は凍結は品質に影響を与えるので、避けること。

貯法及び有効期間

- 1 遮光して、2～10℃に保存すること。
- 2 有効期間は製造後3年3か月間（最終有効年月は外箱及びラベルに表示）

包装

- | | |
|--------|---------------|
| 1 バイアル | 20mL (20頭分) |
| | 50mL (50頭分) |
| | 100mL (100頭分) |

製造販売元



株式会社 微生物化学研究所
京都府宇治市横島町24、16番地

27062600B
EAV®